

ぶらネットこまき

(古牧地区住民自治協議会広報紙)



第70号

古牧だより通算164号

ながのご縁を



信都・長野市

ごえんの輪をひろげよう

会長 小林 逸郎



地域の皆様、明けましておめでとうございます。

皆様方には夢あふれる輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より地域の発展のためにご理解とご支援ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、県内では9月の御嶽山噴火、11月の北部地震と相次ぐ大きな災害が発生したことは皆様方ご存知のとおりですが、古牧地区内においては大事に至らず、安堵しているところでございます。しかし昨今の状況を思うと、何時何処で何が起こるかもわからない未曾有の災害に備えなければならぬと痛感しております。

今年は数え年で7年に一度の盛儀、善光寺御開帳がございませう。また、北陸新幹線金沢延伸の開通により地域の活性化と、経済に対

する波及効果が大きく期待されております。

さて、近年私たちを取り巻く状況は、都市化の進展・少子高齢化の進行・生活スタイルの多様化などによる様々な課題が浮き彫りになって

おります。こうした中で、長野市が推進する都市内分権導入により住民自治協議会の役割は地区を代表する組織として、地域住民の意見集約と、地域の課題解決などに向けて次世代を見据えた、「自分たちの地域は自分たちでつくる」という新たなコミュニティづくりを進めているところです。



既に、当地区では地域の特性を生かした独自の事業に取り組んでおり、環境美化の徹底・自主防災組織の確立、福祉と健康・地域たすけあいの充実、子育て支援施設の拡充、防火・防犯・交通安全の自主的活動と意識の高揚、人権と男女共同参画の積極的参加、文化・スポーツの振興・青少年の育成など、各区や諸団体・諸機関のご協力をいただきながら積極的に推進しております。「安心で安全な住みよい街」に、地域住民のご期待に応えてまいりますので今後ともご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。

今年は未（羊）年、羊は優れた聴力と優れた周辺視野を持っているといわれています。温和で常に群れをつくり移動し先導者に従う傾向がとても強いとされています。私たちが生活（衣・食・住）していく上で必要な衣類の羊毛は、身も心も温めてくれるはずですよ。

新しい年が、より良き年でありますようお祈り申し上げます新年のご挨拶とさせていただきます。



写真提供：善光寺

古牧地区の将来をみんなで考えよう（～活き生き古牧 みんなでトーク～）

昨年度までの「元気なまちづくり市民会議」を「活き生き古牧 みんなでトーク」と名を変えて、古牧地区の住民と市（市長・関係部局）が住みよいまちづくりのために、地域の身近な課題や提案を市長に直接伝え、意見交換しながら、住民と行政が共に考える会として開催されました。



古牧地区では、メインテーマを「古牧地区の将来を考える」と据え、より自由な意見交換を主体とした「活き生きトーク」方式を選択しました。具体的には、①「地域の豊かなコミュニティづくり」と②「安全安心で住みよい地域にするために」をサブテーマに意見交換を行いました。

①地域の豊かなコミュニティづくり

これから進むであろう高齢化や少子化の中にあって、子育てや高齢化・介護等の課題にどのように取り組んでいくか、現状を踏まえての意見交換です。転入者の子育ての不安の解消に地域とのふれあいがあったこと。古牧公民館の子育て支援の広がり。だが、大勢集まる場所がない現状。子どもたちの心が広がることを願って活動している牧っ子の会。障

害者・高齢者の立場から公民館のエレベーターを含めてバリアフリーの問題。民生児童委員の立場から高齢化の進展やそれに伴うさまざまな課題。自治協福祉部会から第2次計画策定のアンケート分析を基に自助共助を大事にすると共に、中核となるボランティアセンターの拡充。様々な活動や課題が示された。



②安全安心で住みよい地域にするために

安全で安心して暮らせる地域社会の実現のため、水害対策について五分一区区長さんが、交通安全について西尾張部区区長さんが、地域公民館の建替えについて中村区区長さんが、また、ゴミ分別問題について環境美化部長から現状の理解と要望がありました。

市からは、担当部長より現状の取り組みについて説明がありました。それぞれの意見は、具体の実践や経験に基づいて気持ちをこめて述べられ、市側と共通な認識に近づくものになったと感じました。熱心に述べられること



によって時間不足となり、自由に意見交換し合うには不足、工夫の余地が残りましたが、懇親会はそれを補うかのように、和やかな雰囲気です。充実したものとなりました。

（総務部）

歌って・作って・楽しいひと時 一人暮らし・高齢者のつどい

ここ数年、年末の恒例行事となってきた「一人暮らし・高齢者のつどい」が12月9日に古牧公民館で開催されました。

日頃、一人で家にいる事の多い高齢者の方々に、歳末のひと時を楽しみ、来年に向け鋭気を養ってもらおうとボランティア古牧の皆

さんと催したもので、役員を含め30人を超える「つどい」となりました。

初めに講師の指導により折り紙づくりを。「若い時のようには上手にいかないな」などと言いながらもクリスマスツリーを、また正月用の祝い鶴を折り上げました。

第2次福祉活動計画づくりに取組み中

「地域に根付いた福祉の為に」を合い言葉に作成された第1次古牧地区地域福祉活動計画がスタートして5年



目となる本年度、新たな時代を展望して第2次地域福祉活動計画を作成することとなりました。第2次計画は来年度から向こう5か年を見据えて福祉課題を整理し、計画書として取りまとめるものです。

現在の進捗状況についてお知らせします。

① 昨年5月から福祉部会が中心となり計画策定の進め方について協議し、8月に住民自治協議会会長、副会長を始め、各区区長、福祉関係団体、地域の福祉関係機関の皆さんに集まっていただき「第2次福祉活動計画策定全体会議」を開催しました。

この会議では、計画作成完了までのスケジュール、推進体制について報告し了承いただきました。又、今後活動計画内容を策定するために、地域の取組み課題について分科会形式で協議しました。

○スケジュール

12月までに活動計画案を策定し、3月末までに完成、4月からは第2次計画に沿って福祉事業を進めていくこととしました。

○推進体制

福祉部会内に10名のプロジェクトチーム

昼食をはさんで午後は、イルミネーションとデコレーションの飾りつけですっかりX'masモードとなった室内。しかも薄暗くキャンドルを灯しながらの素敵な讃美歌から軽快な青春歌謡までみんなで合唱と、しばし非日常の世界をさまよいました。

昼食では、食後のデザートにボランティアの方による手作りのケーキが出されましたが

(幹事会という)を作り、企画立案し、各区の福祉代表、保健補導員代表及び子育て代表の皆さんで構成する「第2次福祉活動策定委員会」で協議決定する体制としました。

なお、協議決定に際し、各区区長、福祉関係団体の意見等をいただいで推進することとしました。

② 古牧地区住民の皆さんの生の声を活動計画に反映させる為に9月、地区世帯数の10%強にあたる1,242名の皆さんにアンケートをお願いし、大勢の皆さんから貴重な意見をいただきました。

アンケート集計作業は10月に完了し、この結果を参考に11月から福祉活動計画書の策定検討作業に入っています。



第2次福祉活動計画は、古牧の全ての皆さんが、支え合い、助け合い、元気で幸せに暮らしていける「まち」、

古牧に住んで良かったといえる地域づくりを目指す内容とし、その為に福祉部会の役員・委員はもとより、福祉関係団体の役員・委員の皆様を始め、各区の区長や多くの皆さんと連携・協調し、地域の福祉関係諸機関とも連絡を取りながら鋭意計画づくりに取り組んでいます。(福祉部会)

「皆でお喋りしながら食べると更に美味しく感じるね」という言葉が印象に残る「つどい」でした。



(福祉健康部)

1月、2月の主な行事実施日のお知らせ

*は、多くの皆様の参加をお待ちしています。

事業名	実施日	場所	実施内容	お問合せ先
男性の料理教室 *	1月16日 (金)	古牧公民館	フライパンで作るイタリアン	ボランティアセンター 244-8159
介護者のつどい *	1月28日 (水)	古牧公民館	介護者の交流	ボランティアセンター 244-8159
交通安全啓発活動	2月4日 (水)	西尾張部交差点		交通安全部 227-8219
介護者相談会 *	2月13日 (金)	古牧公民館	悩みや疑問 気軽に相談を	ボランティアセンター 244-8159
子ども会活動発表会	2月21日 (土)	古牧公民館	年間の活動の発表	青少年育成部 477-2185



ゆいまある (助け合い)

今年度、地区育成会長になり最初の4か月は必死でした。ある日、こんなに一生懸命やらなくてもいいのではないかと人に迷惑をかけずテーパー（適当）に肩の力を抜き、大変と思わず自分のペースで楽しもうと切り替えました。

懇親会に出席する機会も多々あり、そこでは大勢の方と知り合い、会議だけでは見えないものも得ました。その中で長年役員に携わってきた方々は、気負いすぎてないなと感じ気持ちが楽になりました。

しかし、大勢の前で話すという第二の壁は簡単には克服できません。娘が嵐ファンと一緒に番組を観ていると、人気の理由がわかります。人を惹きつける話し方をし、楽しませてくれるのです。そこに至るまでは個人の努力もさることながら、失敗を恐れず回りが支え活動させた年月があったからだと思います。アイドルをそんな目で見る私も年をとったなと感じつつ。人前で話すというのは慣れの一言です。それは私よりも将来社会人として羽ばたく子ども達に大切な事で、子ども会活動の中で少しずつ自信をつけさせ、大きな心で見守ってあげるのが育成会の役目かなと思いました。

子ども会活動がない沖縄育ちの私には勉強の一年でしたが、沖縄の方言の「ゆいまある」まさしく古牧地区の活動だと感じています。

(儀部 恭子)

皆さんからの投稿を歓迎します

「プラネットこまき」は、平成19年7月1日に創刊して以来7年が過ぎ、第70号を迎えました。この間、住民自治協議会の活動・行事を中心に紙面を構成していますが、古牧地区住民の皆さまからの投稿もお待ちしております。

「プラネットこまき」の感想のほか、住民自治協議会活動の充実に役立つご提言も歓迎しています。

(投稿先) 古牧地区住民自治協議会広報部 Fax: 026-259-8359 E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp



古牧地区の世帯数と人口

26年12月1日現在

10,936 世帯

26,527 人

(男 13,037人 女 13,490人)

- 発行所 古牧地区住民自治協議会 (電話 259-8359)
- 発行者 小林 逸郎
- 編集 ぷらネットこまき編集委員会
- 印刷 (有)小池印刷